

土木研究所研究評価委員会・ 北海道開発土木研究所自己評価委員会 合同委員会

第1章 研究評価の方法

1. 合同委員会の開催経緯

平成18年4月には土木研究所と開発土木研究所の統合が予定されている一方で、18年度から着手する次期重点プロジェクト研究の事前評価を実施したうえで次期中期計画の案作成に反映させる必要がある。

統合後の土木研究所が統合効果を発揮し研究開発を効率的に進めるためには、それぞれの研究所が実施する研究の重複を避けるだけでなく、お互いに補完し、あるいは共同で一体となって研究を実施することが重要である。実際に次期重点プロジェクト研究の案作成の段階から調整を図った結果、共同して実施する研究計画案も作成されている。

これらの研究課題の事前評価を行うためには、統合前においてもそれぞれの評価委員会を個別に開催することでは十分な評価が期待できないため、土木研究所研究評価委員会と北海道開発土木研究所自己評価委員会の合同委員会を開催するものである。

2 合同委員会の構成

合同委員会の委員は、土木研究所研究評価委員会および北海道開発土木研究所自己評価委員会の委員長、副委員長および分科会長とし、その構成は次のとおりである。

<土木研究所研究評価委員会>

委員長	玉井信行	金沢大学大学院自然科学研究科社会基盤工学専攻 教授
副委員長	龍岡文夫	東京理科大学理工学部土木工学科 教授
第1分科会長	川島一彦	東京工業大学大学院理工学研究科土木工学専攻 教授
第2分科会長	田村武	京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻 教授
第3分科会長	水山高久	京都大学大学院農学研究科森林科学専攻 教授
第4分科会長	松井三郎	京都大学地球環境学大学院地球環境学堂 地球親和技術学部環境調和型産業論分野 教授
第5分科会長	山田正	中央大学理工学部土木工学科 教授

<北海道開発土木研究所自己評価委員会>

委員長・道路分科会長	笠原 篤	北海道工業大学社会基盤工学科 教授
環境水工分科会長	山下俊彦	北海道大学大学院工学研究科 教授
構造分科会長	三上 隆	北海道大学大学院工学研究科 教授
農業開発分科会長	相馬尅之	北海道大学大学院農学研究科 助教授

(敬称省略)

3 研究評価を受ける研究課題

統合後の土木研究所が重点プロジェクト研究として実施予定の以下に示す17研究課題について事前評価を受ける。

1) 安全・安心な社会

- ①総合的なリスクマネジメント技術による世界の洪水災害の防止・軽減に関する研究
- ②治水安全度向上のための河川堤防の質的強化技術の開発
- ③大地震に備えるための道路・河川施設の耐震技術に関する研究
- ④豪雨・地震による土砂災害に対する危険度予測と被害軽減技術の開発
- ⑤寒冷地臨海部の高度利用に関する研究
- ⑥大規模岩盤斜面崩壊等に対応する道路防災水準向上に関する研究
- ⑦冬期道路の安全性・効率性向上に関する研究

2) 生き生きとした暮らしのできる社会

- ⑧生活における環境リスクを軽減するための技術

3) 国際競争力を支える活力ある社会

- ⑨効率的な社会基盤整備のための設計法の高度化に関する研究
- ⑩道路構造物の維持管理技術の高度化に関する研究
- ⑪土木施設の寒地耐久性に関する研究

4) 環境と調和した社会

- ⑫循環型社会形成のためのリサイクル建設技術の開発
- ⑬水生生態系の保全・再生技術の開発
- ⑭環境を保全するダム技術の開発
- ⑮寒地河川をフィールドとする環境と共存する流域、河道設計技術の開発

5) 北海道の農水産業の基盤を支える技術開発

- ⑯共同型バイオガスプラントを核とした地域バイオマスの循環利用システムの開発
- ⑰積雪寒冷地における農業水利施設の送配水機能の改善と構造機能の保全に関する研究

4 評価項目と評価の手順

合同委員会では、以下の方針で評価を実施した。

合同委員会では、次期重点プロジェクト研究の研究テーマのみの評価を行い、個別課題の評価は実施しない。

合同委員会に先立ち、分科会での評価は実施しない。

18年度の統合後に新しい委員会・分科会を設置し、個別課題について分科会からの事前評価を行う。

以上のことから、合同委員会において、まず、「重点プロジェクト研究実施計画書（総括）」に基づいてプロジェクトリーダーが研究内容について説明を行った後、質疑応答を行い、その結果を基に、各委員がその評価結果を「重点プロジェクト研究（総括）事前評価シート」に記載した。

その場で集計等を行い、評価結果に基づいて総括的な審議を行い、合同委員会としての全体評価を行った。また、重点プロジェクト研究実施に当たっての留意事項を指摘した。

重点プロジェクト研究（総括）事前評価シートの評価項目

【社会的要請】

本研究に対してどのような社会的要請（課題、緊急性）があると考えているか。

【研究としての位置づけ】

研究の発展段階から見ての位置づけはどうか。世界的に見た独創性、国内での適用性等。

【成果（達成目標）】

本研究期間内に達成しようとしている目標は適切か。

【成果の普及方策およびそれにより実現する社会・事業への貢献】

本研究の成果の普及方策（技術基準への反映等）とそれにより実現する社会的貢献（環境、ライフサイクルコスト等）は何か。

総合評価

以上の評価項目を踏まえて、「実施計画に基づいて実施」「実施計画を修正して実施」「実施すべきでない」の3段階評価を行う。

なお、必要に応じて評価結果に関して具体的な指摘および助言を記入する。

合同評価委員会において使用した評価シートを以下に示す。

図 - 2 重点プロジェクト研究（総括）事前評価シート

重点プロジェクト研究名			
社会的要請 (課題、緊急性)	研究としての位置づけ	成果(達成目標)	成果の普及方策および それにより実現する 社会・事業への貢献
評価	実施計画に基づき実施	理由、コメント・アドバイス	
評価者	実施計画を修正して実施 実施すべきではない		

5 合同委員会 開催状況

合同委員会の開催状況は以下のとおりである。なお、合同委員会の審議内容は巻末の議事録に示す。

<土木研究所研究評価委員会・北海道開発土木研究所自己評価委員会 合同委員会>

平成18年 2月 8日(木) 全国都市会館